



SY1

リハビリテーション管理システムに蓄積された臨床データを用いた AI 予後予測ツールの実装

西川 正一郎

タック株式会社

略 歴

- 2000年
阪奈中央リハビリテーション
専門学校 卒業
医療法人大植会 葛城病院 入職
- 2007年
産業能率大学 通信教育課程
経営情報学科 卒業
- 2020年
関西医療大学大学院 保健医療学
研究科 卒業
- 2024年
タック株式会社 入職

【所属学会】

- ・(公社)日本理学療法士協会
代議員
- ・(一社)日本予防理学療法学会
- ・(一社)日本理学療法管理学会
評議員
- ・日本医療マネジメント学会
- ・(一社)日本リハビリテーショ
ン医療デジタルトランスフォー
メーション学会

【免許・資格】

- ・修士(保健医療学)
- ・専門理学療法士
(地域理学療法, 予防理学療法,
支援工理学療法)
- ・介護予防推進リーダー
- ・地域包括ケア推進リーダー
- ・フレイル対策推進マネージャー
- ・協会指定管理者(上級)
- ・住環境コーディネーター2級
- ・医療安全推進指導者
- ・日本リウマチ財団登録理学療
法士・作業療法士

【主な執筆】

- ・リハビリテーション職種の
キャリア・デザイン 編著:
大町かおり, 高木綾一(株)
CBR 2017年9月(分担執筆)
- ・Nishikawa S. Physiotherapy
for the Older Adults in Japan.
Nederlands Tijdschriftvoor
Geriatricfysiotherapie. 2020.
12: 3-4.

近年、医療分野における AI の活用は急速に進展しており、リハビリテーション領域においても、AI や生成 AI を用いた紹介状・サマリー作成による業務効率化や、蓄積された臨床データを用いた機能回復の予後予測など、多様な応用が期待されている。本シンポジウムでは、当社が開発する「タックリハビリテーション支援システム」に蓄積された臨床データを活用し、AI による予測分析ツールを実装する取り組みについて報告する。

本システムでは、リハビリテーション専門職の日常業務の中で記録される評価データ、訓練実施状況、ADL 指標などの構造化データに着目し、それらを二次利用可能な形式で抽出・連携する仕組みを構築した。具体的には、ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社が提供する AI 予測分析ツール「Prediction One」とのファイル連携を実現し、臨床現場で蓄積された評価結果などの数値データを用いた予測モデルの構築を可能としている。

本取り組みにより、退院時 ADL 到達度や在院日数などのアウトカム指標の予測を通じて、臨床現場における意思決定を支援する情報の可視化が可能となることが期待される。さらに、これらの予測結果をリハビリテーション計画の検討やチーム医療における情報共有に活用することで、より根拠に基づいた臨床判断への貢献が期待される。

一方で、データの質の担保や入力標準化、AI モデルの信頼性、倫理的配慮、さらに予測結果の臨床的妥当性の検証などの課題も存在する。本発表では、システム実装に至るまでの入力プロセスやデータ設計上の工夫、現場運用で得られた知見を共有するとともに、AI が理学療法・作業療法の実践にもたらす可能性と限界について議論する。AI を臨床家の役割を置き換えるものではなく、意思決定を支援するツールとして活用するための現実的なアプローチを提示したい。